

今日のみ言葉 197 2010.11.13

「神の霊が自分たちの内に住んでいることを」

(I コリント 3 の16)

あなた方は神の霊が自分たちのうちに住んでいることを知らないのですか。

Don't you know that you yourselves are God's temple and that God's Spirit lives in you?

この使徒パウロの問いかけは、現代の私たちにも問いかけられている。神を信じている、と自分では思っている、と神の霊、すなわち神ご自身と同じもの、目には見えない神の力、その愛といったものが私たちに住んでいる、ということを実感しているだろうか。神の霊が心のうちにある、といわず、住んでいる(*)と言われているのも意外な気がする。

(*)原語のギリシャ語は、オイケオー oieo で、家 (オイコス oikos)と語源的につながっている。(家に)住む、という意味。

神の霊というたとえようもなく清い、しかも力あるお方が、小さなしかも罪深い私たちの内に住んでくださっている！ このことは、驚くべきことである。

キリストを信じている人であっても 神の霊が住んでくださっていることを実感している人が少ないために、パウロはこのように問いかけている。

神はいつも私たちに問いかけている。人間の最初の姿であったアダムが、罪を犯したとき、神はただちに叱責せず、あえて「あなたはどこにいるのか」と問いかけたのであった。(創世記 3 の 9) 自分がどこにいるのか、本当に正しいところにあるのか、ということも私たちは気付いていないことが多い。いつのまにか正しい道からはずれ、自分中心、人間中心の考えになっていることが何と多いことであろう。

同様に、私たちのうちに神の霊、聖霊が住んでくださっているということも静まらなないと分からない。そして、このようなことがはっきり分からなくともそれを信じることによって、その実感が次第にはっきりしてくる。

私たちの内だけでなく、私たちが生きているこの世のただなかにも神の国(キリスト)はあると言われた。「神の国はあなた方のただなかにある」と。

さらに、神の愛によって創造された自然のさまざまなもの、草木、大空、川や海、風等々、それらのうちにも神の愛と真実が宿っていることも、注意深くそれらの自然を心の目で見つめていないと気付かないままになる。

主イエスは、目を覚ましていなさい、と言われた。私たちもいつも心の目を開いて、私たちの内に住んでくださっている神(聖霊)、周囲の自然にも、そして世界のただなかにおられ、働いておられる神を意識しつつ、新たな力を受け、導かれて歩みたいものである。



コバイケイソウ

月山 (標高 1984m 山形県) 2010.7.30

人ひとりいない東北の山地において、この光景に接して、まさに神の国からの風が吹きわたっているのを実感したのです。

この花は、中部地方以北、北海道の山地に見られるものでこの写真も標高 1700m ほどのところでの撮影。

北国の高山に広がる緑の草原、そこには広大な領域にわたって神によるいのちがあふれ、そこにたたくとき、そのいのちに触れて心身ともにリフレッシュされるような気持ちになったものです。

そして、その緑の原に白い花を裂かせる高さ1m ほどのこの花は、そのあふれるばかりのいのちを賛美しています。

こうした光景、それは 私たちも心の世界に、こうしたみどりの原と、白い花のある光景をもち続けているように、神のいのちに満たされ、この花のように罪清められて神を讚美しつつ歩むのが私たちのあるべき姿だ、と語りかけています。(文、写真とも T.YOSHIMURA)